

ビューローから送られてくる封筒にある記号

JJ1SXA/池


(株)パイルアップ プロダクツが、アマチュア無線の世界で、いま、起きているニュースや話題を届けているサイト「hamlife.jp」に、一寸前に載っていた記事の引用です。

皆さんご存知の通り、2か月に一度、島根県出雲市にあるQSLビューローから自局宛てのQSLカードが転送されてきますが、その封筒の宛名の横に「A」「B」「C」などの記号が記載されています。

この記号は、QSLビューローがその局へ発送するカードと封筒を合算した「重量区分」を表すものだ、郵便物は重量や封筒の大きさによって料金が変わるため、正しい料金が後納できるようにこの記号で管理しているようだ。

また、その月の転送枚数が少ない局へは定形サイズの封筒を使い、多くなれば定形外サイズの大型封筒やレターパック、白箱などを使うことになるので、どの封筒を使うかの目安にもなっているようだ。

記号	重量 (※)	封筒の種類	配達業者
A	25g以内	横型封筒 (定形サイズ)	日本郵便
B	26～50g		
C	51～100g		
D	101～150g		
E	欠番？		
F	151～250g	大型封筒 (縦サイズ)	
G	251～500g	レターケース (白無地)	
H	501～1,000g		
I	1,001～2,000g	いわゆる「白箱」	
J	2,001～4,000g	ボール箱	
K	4,001g以上	ボール箱	

※実際は重量超過で料金が上がらないように5g程度のマージンを取っている 

「通常はがき」の規定サイズは、最小が縦14cm×横9cm、重さ2グラム、最大で縦15.4cm×横10.7cm、重さ6グラムとなっています、2グラム～6グラムということです。QSLカードの重さの平均を仮に5グラムとすると、5枚で25グラムで区分Aのようですが、5グラムのマージンを差し引くと、4枚になります、同様に考えるとB区分は5枚～9枚程度です、普通に無線をやってる局は、D区分以上の封筒等になるのでしょう、

私が頑張ってる無線をやっていた時代は、封筒に記号は無かったが、今の封筒記号を当てはめてみると、せいぜいD区分かな、それほど、QSLの交換をするQSOはしなかったということか？

JCC、JCGを50MHzのCW特記で狙ってある程度進み、同じく50MHzのCW特記のVU1000が完成したり、DXCCも21MHzのCW特記で100エンティティを越えた頃から、240に夢中になり、入れ上げて(笑)、コンテスト以外のQSOが少なくなったことも事実だ。

現在は、LoTWやeQSLの利用で、紙ベースのQSLカードの交換は少なくなり、レターケース、白箱、段ボール箱等の大型の転送用の物は使われなくなって来るのでは無いでしょうか、DXCCの申請もQSLカードの現物をARRLに送らなければいけなかったが、遠い遠い昔話になりました。

コンテストも今は、コンテストログを使いこなせない局は上位入賞は無理なようです、私は高速のキーイングが無理なのでコンテストログが使えず、手書き受信でエレキー手打ち送信と昔のスタイルで情けない状態です。

そこで、「縦振電鍵」によるコンテストの愛好家？になっています、と言っても「縦振電鍵」の達人には程遠いですが…

「エスカルゴ6mCWコンテスト」や「A1CLUB STRAIGHT KEY コンテスト」あるいは「全日本CW王座決定戦コンテスト」等にちょこっと冷やかしか参加ですが、「A1CLUB STRAIGHT KEY コンテスト」の前身の「A1CLUB コンテスト」の頃は周波数部門で、50MHz部門の、第8回、第9回で1位になりましたが、翌年の第10回から50MHz部門が無くなりご無沙汰になりました、「全日本CW王座決定戦コンテスト」は今年(2023年)が最後になるようで一寸寂しいですが、スタッフの高齢化で運営が難しいようで仕方ないです。

高齢化の話の続きで、大分以前になります、240グループが幹事だった「関東モバイルHAM同好会」の開催に伴う案内に返事の無いグループがあり、参加の有無を問い合わせたら、皆さん高齢で、運転する人もいないので、脱退させてもらうことにしましたとの返事を聞き、高齢化というのは大変なことなんだと思いましたが、その頃240グループは次世代を担う局も多く大丈夫だと思いましたが、然しあれからかなりの年数も経ち、平均年齢も持ち上がっています、更なる次々世代を担う人材を募り、育てなければいけません、あちらこちらのクラブで高齢化で、解散という話も珍しく無くなりつつあるようです、各局真剣に考えて下さい。

QSLカード転送封筒の記号の話から一寸脱線で高齢化の話になりました。

(2023年10月記)